



「ユメをカタチにする会」代表の宮本陽介さんは、田布施町の発展のために、自ら町の夢の実現に向けた企画をし、活動をされています。その町への思いと活動の内容についてお話をして頂きました。



町を彩る巨大オブジェをみんなで作ろう

No.275

砂田自治会 宮本 陽介

「ユメ」を「カタチ」にすることで、
今以上に町を好きになって欲しい。

「ユメをカタチにする会」では、子どもたちや町の人たちが気軽にアートに親しめる環境の提供をしています。7月には、西田布施公民館にて大きな絵と和紙染色のワークショップを開き、子どもたちや地域の方など多くの方に参加していただきました。

この会の最終目標は、町民の制作による巨大オブジェを町内に展示することです。町民自身がここにこんなものがあつたらいいなと描いた「ユメ」を、町民自身が「カタチ」にすることで、それに関わった人みんなが今以上に町を好きになって、そしてなによりみんなで協力し一つのことを成し得ることで達成感を味わって欲しい。このオブジェには、誰もが自由に夢を思い描き、それを実現するために努力できる町でありたいという願いが込められています。もちろん見る人の目を楽しんだり、通る人たちの目印にもなります。

私は昨年、文化庁主催の若手芸術家育成事業「コレクティブ：EAS_Y Vol.01」において、子ども



もたち対象のワークショップを開き、そこで描かれた子どもたちの「ユメ」の絵を立体作品やスタンプという「カタチ」にするという創作活動を行いました。この経験を町づくりにも活かせないかと思い、昨年行った子どもたちの「ユメをカタチにする活動」から、「ユメをカタチにしたくなる町づくり」に内容を変え、田布施町で学習塾を営みながら活動しています。

本年度はワークショップを通じてアートの魅力を広め、来年度以降に巨大オブジェの制作に取り掛かります。各ワークショップへの参加も可能です。様々な内容の催しを用意していきますので、お気軽にご参加ください。

色をたのしむワークショップ Vol.2

◇日時

10月24日(土)

午後2時30分～午後4時30分

◇場所

西田布施公民館

◇内容

七色の手形スタンプ&巨大コラージュ

◇問合せ先

080-1934-9242(宮本)



▲カラフルな絵の具で創作中の子どもたち

地域の子どもは 地域で育てる

東田布施小学校

PTCAプロジェクト会長



皆さんPTCAをご存じでしょうか。PTCAとは、PTAに地域住民(Community)が加わった「親と先生と地域住民の会」のことです。地域住民が学校教育に外側からの支援をするだけでなく、内側・外側の両方で参加する。そこには、地域住民がみんなで学校をつくる「共育」という発想があります。「地域の子どもは地域で育てる」。そのために自分たちの役割を果たす。地域社会の三者が、子どもの教育について親密に連携した組織がPTCAです。

私は10年前、平成16年8月に日本PTA全国大会北海道旭川大会にPTA役員として当時の東小の校長と共に参加しまし

た。その中で分科会「地域との連携」に参加し、ここでPTCAを知りました。『とても新鮮で素晴らしい活動です。ぜひ、東田布施小学校でやらせて下さい。』帰りの飛行機で校長にお願いしました。校長は『やってみなさい。責任はわしがつくる。』OKを頂きました。さて、講師の募集をどうするかな。回覧板はどうかな、さっそく回してみると8人の問い合わせがありました。そのうちボランティアの方をお願いし、5人の方が講師として決まりました。時間は水曜日の放課後と決まり、始めてみました。ところが順風満帆とは行きませんでした。ある日、講師の方から、児童が騒いで行儀が悪く、困っていると言われビックリしました。夜、お詫びの電話をして対策をしますからと言いました。その後PTA役員の方をお願いして児童の見守りをして頂いております。保護者は児童の様子を見ることができると、児童も保護者が見てくれていると安心します。

その後、地域の方々の協力により、田植え体験、稲刈り体験、生き物調査、ホタル観察会、省

エネ環境隊へと発展しました。3年前からは公民館の生きがい教室の皆さんが小学校へ出向き豆まきなどに参加してくださるようになりました。また、児童がコスモス祭りや公民館まつりなど地域に出向き、手品の披露をするようになりました。10年を振り返りなぜここまで出来たのか、それは良き先生、地域住民、保護者の皆さんに巡り会えたことだと感じ感謝申し上げます。これから町内、県内に発展することを期待します。



▲ホタル観察会～東小児童による「ホタル調べ」の発表



シリーズ⑦

文化財

【間】社会教育課

文化財調査室
☎25・3185

■平成27年発掘調査レポート

(石ノ口E4遺跡)

石ノ口E遺跡は、平成26年度から平成28年度までの3カ年で調査を完了する予定です。今年の6月から222㎡の作付をしていないところを調査してきましたが、無事、8月に調査を終えることができました。

調査の結果、溝状遺構21条、土坑状遺構12基、柱穴状遺構32基検出しました。遺物はおおよそ鎌倉時代のもので、土師器の皿、土師質土器の鍋、瓦質土器のすり鉢、青磁、黒耀石の剥片などが出土しました。大半が小破片でした。

石ノ口E遺跡の今回の調査地は建物跡など確認できませんでしたが、遺構出土遺物から、鎌倉時代の集落の一部を確認しました。

発掘調査は6月22日(月)に

重機による表土掘削から始まり、8月11日(火)に航空写真の撮影を行い、8月23日(日)に現地説明会を実施しました。

前年度の調査では、古墳時代の石蓋土壇墓や古墳時代・平安時代の建物跡、今年度の調査で鎌倉時代の遺構が確認されています。今後の調査で、古墳時代から奈良・平安・鎌倉時代の当該遺跡の集落の様相など解明されるのが大いに期待されます。



▶完掘状況